

この度はクラニシのNT-535をお買い上げ下さいましてありがとうございます。

NT-535は種々の特長を備えた3.5MHz～54MHzのアンテナチューナーです。本機の特長を知り、有効に利用して頂くため本取扱説明書をよくお読み下さい。

【特長】

NT-535は都会派の無線局が一番困っている、充分なアンテナが建てられない、ということに注目して設計されました。数少ないHF用アンテナを利用して出来るだけ多くのバンドを運用するために本機は新機構、ファジーマッチ方式を採用し、

1本のアンテナで多くのバンドにマッチングさせるという大きな特長をもっています。集合住宅のベランダやモービルでのHF帯のアンテナはさまざまな制約を受けますが最適のアンテナと本機を利用して最善のハムライフをおたのしみ下さい。

【定格】

● (測定回路)

周波数範囲	3.5～54MHz
入出力インピーダンス	50Ω系
SWR測定範囲	1:1～1:∞
測定電力	0～200W
最大入力	200WMAX
測定精度	FS±10%

● (チューナー回路)

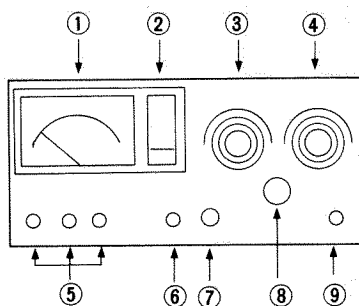
周波数範囲	3.5～54MHz
出力インピーダンス	8～300Ω

● (機構・その他)

入出力コネクター	入力 MR50A M型50Ω 出力 MR×2パネル面にて切替
寸法	235W×100H×250D 突起物を含まず
重量	約2.8kg

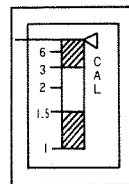
【各部の名称】

「前面」

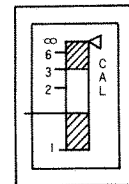


【SWR電力計部のみ単独使用する場合及、SWRの測り方】

- 1) ⑥チューナースイッチを押し ■ THRUにするとチューナーが回路から、切りはなされSWR電力計だけが動作します。
- 2) 送信機の送信能力に応じて⑤を20W・200Wに切替える。
- 3) ⑦キャリブレーションボリュームツマミは最少まで廻し、押し込んでおく。
- 4) 送信機をAMモード、FMモード・CWモード等で送信しますと電力計メーター①が送信電力を指示します。
- 5) 次に⑦のキャリブレーションツマミを引出しゆっくりと時計方向に廻して②のSWRメーターの針CAL点まで上がったら止めます。この点でツマミを押し込むと (PUSH・SWR) ②のSWRメーターの針が下方に移動してその時のSWRを指示して止まります。



⑦ツマミを引出し時計方向に回す針がCAL点まで上ったら止める



⑦ツマミを押し込むと針が下がって止まる。図ではSWR=1.5です。

- 6) ⑦のツマミが引出された時は①の電力計メーターは反射波電力 (Pr) を測っています。又ツマミが押込まれた時は送信進行波電力 (Pf) を測っていますので下記の計算式より正確なSWRを計算で算出することもできます。

計算式 $SWR = \frac{\sqrt{Pf + Pr}}{\sqrt{Pf - Pr}}$ Pf 進行波電力
Pr 反射波電力

又は、 $RP = \frac{Pr(W)}{Pf(W)}$

電圧定在波比 $V.S.W.R = \frac{1 + \sqrt{RP}}{1 - \sqrt{RP}}$

又計算がめんどうな場合はSWR換算表(グラフ)でも求められます。